

大かほ下 議会だより

No. **168**

令和7年
7月定例会
7月20日号



議会だよりのページ



・ Topic 1

6月定例会で決まったこと
主な審議結果 P2-3

・ Topic 2

議会から町長への
政策提言 P4-5

・ Topic 3

委員会の審議状況
常任委員会レポート P6-8

・ Topic 4

議員から行政に
一般質問 P9-17

補正 予算

一般会計補正 3034万円 総額133億1442万円に

可決
全会一致

【主な会計】
一般会計
3034万円(総額133億1442万円)

【支出】
・予防接種および感染症予防 932万円
・移住・定住推進 260万円
・フォーチュンタウン定住交付金 499万円
・地域担い手育成 377万円

主な事業



予防接種および感染症予防
932万円



スマートIC測量設計監理
350万円



地域担い手育成
377万円



産業振興センター施設設備
105万円



旧高島一中解体工事始まる

Point 1 旧高島一中解体工事
契約金額 1億6115万円
【契約先】羽山総合建設(株)
【工事期間】令和7年6月21日～8年2月27日
【工事概要】校舎棟(4672㎡) 駐輪場(480㎡)解体

Point 2 町道安久津高島線歩道整備
契約金額 5802万円
【契約先】大浦工業(株)
【工事期間】令和7年6月21日
～7年12月19日
【工事概要】側溝整備・車道塗装 他



Point 3 下町地区調整池整備工事
契約金額 7062万円
【契約先】(株)高橋建設
【工事期間】令和7年6月21日
～8年1月15日
【工事概要】法覆護岸工・立入防護柵・ポンプ庫 他



Point 4 八坂橋補修工事
契約金額 6523万円
【契約先】みどり環境建設(株)
【工事期間】令和7年6月21日
～8年1月15日
【工事概要】法橋面防水・防護柵補修 他



6月 定例会

会期
6月10日(火)～20日(金)
提出議案等は12件

報告 …… 3件
補正予算 …… 2件
条例改正 …… 3件
契約 …… 4件

**いずれも
原案どおり可決**

【報告】
・予算継続費繰越
1億8981万円
・予算繰越明許費繰越
2億7092万円

町民のしあわせと町政の発展を期し 議会から町長への

政策提言

総務文教常任委員会

地域コミュニティー

1. 改善方法の検討、新しいスタイルの模索

- ① デジタル化による情報伝達や集金業務等、役員の負担軽減が運用可能かを検討すること。
- ② 高齢者等デジタル弱者への影響と配慮についても検討すること。

2. 地域における様々な団体・企業との連携

- ① 地区公民館と自主防災組織が中心となり、消防、学校、福祉施設、企業等と連携したネットワークを構築すること。
- ② 子ども食堂やコミュニティーカフェ等と連携した居場所づくりの体制を整備すること。

3. 地区公民館が果たす役割の検討

- ① 少子高齢化により各自治会が行ってきた事業の見直しと連動して地区事業の在り方を再検討すること。
- ② 地区公民館が町行政の総合窓口を担い、地区内の各団体や施設・企業等とのつなぎ役を果たすなど、新たなシステムを検討すること。
- ③ 地域との関係が薄れている中学生、高校生、若者層との関わりを調査し、地域コミュニティーとの橋渡しを検討すること。



高島高校の魅力化向上と地域活性化

1. 就学支援金制度の柔軟化と有効活用の推進

2. 学生宿舎の整備と運営支援

3. 通学支援体制の再構築

- ① 中学校スクールバスの運行資源の活用可能性を調査・検討すること。
- ② 通学専用スクールバスを運行すること。（※デマンド交通とは切り離れた運行形態）

4. 魅力ある教育・運営体制をつくる新組織の創設

- ① 同窓会・PTA・地域企業・自治体関係者を巻き込んだ「高島高校魅力化推進会議（仮称）」を創設すること。
- ② 地域資源と連携した探究学習、部活動支援、イベント企画などを推進すること。

産業厚生常任委員会

有機農業の推進について

1. 地域認証制度体制の普及

- ① 認証基準
- ② 認証する組織と内容
- ③ 土壌づくり
- ④ 有機肥料づくり
- ⑤ 農薬の使用状況

2. オーガニック給食の推進

- ① 安心安全なオーガニック給食を町内小中学校給食に導入するよう推進すること。
- ② 自給野菜組合のメンバーの高齢化、固定化が課題となっているため、新規参加者の加入を推進すること。

3. 有機農業や「食と健康」をテーマにした啓発活動の推進

4. 一坪農園の推進

5. 抑草ロボット活用による有機農業の推進

6. 町内流通の確立

- ① 慣行栽培との有機農産物の販売価格差を一部保証すること。
- ② 朝市、青空市場等を開催し、有機農産物の地産地消を推進すること。
- ③ 飲食店で有機農産物を提供できるようにすること。

7. まほろばの里農学校の再開

空き家対策及び利活用

1. 空き家の実態把握及び適正管理の徹底

2. 空き家等を増やさない取組

3. 空き家等の有効活用に向けて

- ① 「デュアルスクール」などの二地域居住宿舎としての活用。
- ② 有機農業の技術研修ほか、各種学習等による活用。
- ③ 移住定住を検討している人を呼び込む短期間の体験宿泊等を企画するなど、関係機関や庁内部署間が連携して移住希望者とのマッチング可能な相談体制を確立し、移住コーディネーターとしての役割を果たしていくこと。
- ④ 自治会による防災備品の収納や、冬期間の雪押し場をはじめ、地域活性化に向けた茶の間などのコミュニティーの場づくりのため、空き地や空き家を活用していくことを検討すること。

特に、「高島町空き家等及び空き地対策計画」で示す、所有者等が不明な土地を地域住民の福祉や利便性向上のため整備できる地域福利推進事業についても、町が現状で把握し想定できる土地等の活用を計画し、地域に積極的に呼びかけられるよう検討を進めること。

委員会活動レポート

産業 厚生

有機農業の推進

① 地域認証制度

- ・ 町独自の地域認証制度の表示内容については、常識内であれば国は関知しない。
- ・ 町の認証制度は透明性を保ちながら工夫をし、周知していく。
- ・ 土壌表示については、慣行栽培から特別栽培、有機栽培への変換の経年数の表示はない。
- ・ 認証制度・農薬、化学肥料の表示方法が課題。

② 生産技術の改良

- ・ 生産者、消費者の相互認証対応の体制づくりが課題。
- ・ 協議会で抑草ロボットを1台購入し、各団体に活用中。
- ・ 抑草ロボット等を活用した栽培体系の実証に取り組み。
- ・ 新規就農希望者への



▲抑草ロボットによる活用後

▲抑草ロボットによる活用前

③ 消費者への理解促進

- ・ 地域認証の運用、広報周知。

- ・ 望者に対し、パンフレットを作成および研修受け入れ体制を整備する。
- ・ 有機農業をテーマにした講演会等の開催。
- ・ ホームページの作成およびSNSでの情報発信。

① 現状

- ・ 町内空き家数は467戸5・8%。
- ・ 利活用とは、売買、賃貸、解体のこと。住居に適さない空き家は解体し、建設課として対応しきれない。仕様の良い物件は、空き家バンクを通して、少なくとも売買される。
- ・ 新規就農者からの空き家に関する問い合わせがある。
- ・ 解体の問い合わせが多い。
- ・ 利活用可能物件の所有者に対し、空

空き家の利活用

② 課題

- ・ 自治会、町内会および関係機関と協力し、空き家の実態把握および適正管理に努めること。
- ・ 空き家を増やさない取り組みとして、「空き家予防セミナー」等の開催のほか、各集落等への出前講座等の実施も検討すること。
- ・ 空き家等の有効活用に向けては、空き家バンクの活用と共に、移住定住を促すため、積極的宣伝活動を展開すること。

委員会活動レポート

総務 文教

官民連携で 住みよいまちづくり



▲二地域居住から移住へ

町が元気になるような事業の取り組みを、担当課と考えていく必要性を感じている。事業の申請が採択されるように進めていくべきであり、議会としても注視していく。

区長会連絡協議会の役職が決まり、令和7年度がスタートしているが、役員となり手不足など、各自治会が抱える問題の解決策を考えていかなければならない。育成会、若者会、若妻会などの実態を踏まえ、自治会の協力体制の構築が必要である。情報共有でより良い方策を進めていきたい。当町では、二地域居住先導的プロジェクト実装事業のほか、6年度からの官民連携の共同プロジェクトやデュアルスクールの取り組みも継続している。

地域と共に 高畠高校支援



▲魅力向上で地元へ愛される高畠高校に

7年度、高畠高校の入学人数は、45人であった。出身市町については、町内23人、米沢市5人、南

陽市15人、川西町2人。今後、魅力向上のための取り組みを地域全体で支援する体制づくりを作っていくことが課題である。現在の就学支援が適当であるかを常に検討していくと共に、議会としても中高生で活動していることを応援していく。

町民との合意形成で 教育環境の整備を

小学校の児童数が減ってきている状況で、今後の小学校整備については課題として挙げられている。6年度の出生数が90人となり、各地区の児童・生徒数を見据えた環境整備を進める上で、少人数学級や複式学級を視察し、今後につなげていく。

現時でも考えていくものとする。町民への周知と合意形成も必要であると思っている。生徒・児童数の減少により余ったタブレットは、リース契約終了まで学校の教育センター機関や会計年度任用職員、教育支援などで有効活用しているとの報告であった。

町内小中学校と県立高校の卒業アルバムの個人情報流出の報道を受けての対応は、各保護者への文書通知とした。

現在の幼少中連携の活動は総会、研修会のほか、各施設を巡回訪問するなど情報交換しているとのこと。

親しまれる新庁舎となるために

町長 都度、改善を加えながら整えていく

☑ 新庁舎が5月7日開庁した。明るく暖かく開放感があり、それでいてコンパクトにまとまっている。町の新しいシンボルとして、皆に愛される庁舎になるよう祈念する。

☑ 窓口業務を集約し、ワンストップでサービスを提供できる環境を整うなど、住民サービス向上につながっていると考えている。

☑ 新庁舎では、入口の正面に総合窓口を配置し、来庁した方々に職員が声がけをしている。また、1階に窓口部門を集約し、移動距離が少なくなるよう設計した。

☑ 長期的には、業務の見直しやデジタル化による業務効率改善により、限られた職員でもより良い行政サービスが提供できるよう取り組みたい。

短期的には、経験やスキルを持った社会人の採用、インターンシップの受け入れなどにより、優秀な人材確保に取り組む。

☑ 利用しやすい庁舎は、多様な機能と職員の丁寧な対応が組み合わさることで実現する。親しまれる庁舎になるために、職員の来庁者対応等について、どのような指導や取り組みを行っているか。

☑ 官製談合防止法違反等の容疑で本町職員が逮捕された件、福祉課での職員の不適切な事務処理が発生した件、いずれも組織内の人材不足が根底にあり発生した事案である。

☑ 町職員の仕事は、地域住民の生活に密着した多分野で広範な業務があり、地域社会の発展に様々な貢献をすることが求められる。ゆえに職員に必要な能力は多岐にわたる。

☑ 人材確保においては、実際の公務内容と、学生の公務職場イメージのミスマッチが、若い職員の早期離職等につながっているとの分析結果もあることから、インターンシップや職員との意見交換等を通して、高島町を理解いただく機会を更に確保することが重要と考えている。



動画配信はこちらから



▲親しまれる新庁舎窓口

委員会活動レポート



【日時】6月20日(金)
「入札・契約に関する事務について」
町財政課課長補佐
(財政担当)
今野 寿一氏
【内容】
公共工事に代表さ

れる入札契約方式については、地方自治法に基づく公正性、透明性、経済性の確保を原則に、競争性の確保を図り、選択される。

この度策定したガイドブックでは、運用(内規)で処理された関係事務の整理をし、全職員に向けた研修会を開催。当時の現状も含めてガイドブックを参考に説明を受けた。

議会運営

議員研修会

広報広聴

新庁舎初議会を傍聴して

新庁舎での初議会となった、6月定例会を傍聴された町民の方の声を紹介します。

●初めて議会(一般質問)を傍聴しました。改めて議会や政治に関心を持つて、自分事として関わっていかうと思いいきつかけになりました。(10代 学生)

●空調のせいか発言者の声が傍聴席では聞き取りづらかったので改善して

ほしいです。(50代 主婦)

●防災のことなど聞きたいことが聞けなかったです。(50代 会社員)

●議場のつくりも良いと思いました。マイクの声が小さく、ちょっと聞こえなかったのが残念です。(70代 主婦)

アンケートにご協力いただいた皆さま、貴重なご意見ありがとうございました。

次回9月定例会へ、是非、皆さん！
議会傍聴へ
お越しく下さい！

新庁舎での初めての議会ということで、マイクやスピーカーの聞きづらさでご不便をおかけしました。今後しっかりと対応してまいります。



▲議員との距離が近くなった傍聴席



動画配信はこちらから

地域内の支え合う仕組みは

町長 反省を踏まえ新たな展開を進める

基本目標「地域の中でゆるやかに支え合うしくみを広げる」の具体的な施策の成果、進捗、課題は。

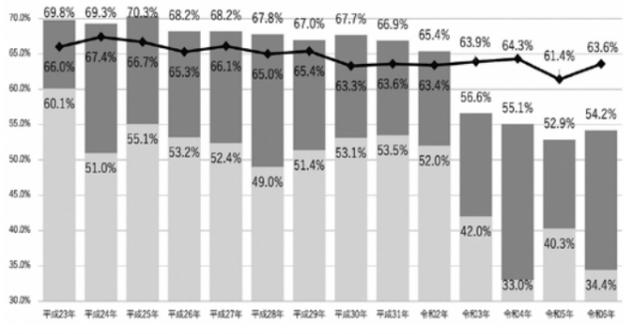
各地区において、「助け合い・支え合い」

の地域づくり会議」を実施。新たな移動支援の取り組みが生まれた。令和6年度の反省を踏まえ、引き続き新たな展開を進める。

支援者を増やす手

世論調査 現在の地域での付き合いの程度 (過去14年)

貢献意欲が微減に対して付き合いは約15%も減少。特に30代の減少が目立つ



※「あなたは、地域での付き合いをどの程度していますか」の質問に対して「よく付き合っている」と「ある程度付き合っている」を「地域での付き合いがある」として集計しました。

出典：「社会意識に関する世論調査」(内閣府)を加工

立て、もしくはこれらから取り組む考えのものがあるか。

存続が懸念される組織やイベントはあるか

現在、存続が危ぶまれている組織やイベントについて、把握しているか。

存続が危ぶまれている組織はないもの把握している。コロナ禍で中止となった地区行事については、地域の実情に合わせ工夫しながら再構築している。

町として存続が懸念される各種団体の現状把握の調査をすべきと思うが、その考えはあるか。

前からあった組織

が段々と薄れてきていることは危惧している。後継者や役員のなり手がいるかなど、今後考えていきたい。

LINE機能の拡充を

これまで、翌日のごみ収集をお知らせする機能や国民健康保険の加入・脱退の手続きができる機能など順次追加しており、今後も充実に図っていく。

LINEでセグメント*配信を実施する意向があるか。

利便性の高いサービスを多くの方々に利用いただくため、必要な情報を届ける「セグメント配信」について今後、実装に向けて取り組んでいく。

現在、地域の中で学ぶ機会として、多くの地域の皆さんに関わっていただきながら放課後子ども教室を実施している。さらに、町が取り組んでいる官民連携事業の中で、「まちまるごと子育て事業」や「地域とつながる学び場の創出事業」の取り組みを通じて、子どもたちの地元愛の醸成や心を育む機会がさらに創出されることを期待している。

※セグメント：同じ属性を持つグループのこと。

心の教育の取り組みは

放課後児童クラブや放課後子ども教室において、ボランティア等の外部講師を招き、授業中では実施しづらい教育、地域との関わりを深める時間を創出してはどうかと考える。このような機会の実現性や有用性について、町の考えは。

現在、地域の中で学ぶ機会として、多くの地域の皆さんに関わっていただきながら放課後子ども教室を実施している。さらに、町が取り組んでいる官民連携事業の中で、「まちまるごと子育て事業」や「地域とつながる学び場の創出事業」の取り組みを通じて、子どもたちの地元愛の醸成や心を育む機会がさらに創出されることを期待している。



動画配信はこちらから

町の産業の現状を脱出する手立ては

町長 次世代のリーダー経営人材を育成する

人口減少が進む中、特にサービス業の客が減っていくと見られ、町内商店や飲食店など寂しい光景の当町の現状を打破するまちづくりが必要と考えるが、町長の考えは。

人口減少が進行し、各分野における地域の担い手不足が懸念されている中、地域経済を維持・発展させていくため、未来の高島を牽引する次世代のリーダー経営人材を育成し、本町の賑わいを創出していきたい。

高島町商工会の会員数が10年間で約50人

減少している。町内経済、町民生活にもマイナスの影響が危惧される。この問題について町長の考えは。

町としては、町商工会や山形県事業継承・引継ぎ支援センター等の支援機関と連携し、事業継続にむけた支援を行っていく。

当町の創業支援事業補助金制度は、補助額2分の1、最大30万円であるが、県内他市町村に比べ少額ではないか。

本町は、「創業支援事業費補助金」に加

「中小企業設備投資等補助金」の制度があり、他自治体と比較しても、本町の支援制度が見劣りしているとは考えていない。

米価高騰とコメ増産の対策を

米価は昨年の2倍で、5kg4200円と高騰している。経済的弱者や、食べ盛りの子どもがいる家庭に米購入助成など、何らかの支援策を実施すべきではないか。

令和3年度以降、毎年低所得世帯や子育て世帯などに給付金を支給している。今後とも国の動向を確認しながら進めていく。



▲森の妖精、姫ポタル (提供：島津 淳氏)

自然環境の保全の取り組みは

二井宿地区の「ゲンジ螢とカジカ蛙愛護会」が、長年の活動が認められ、自然環境功労者環境大臣賞を受賞した。

屋代川の河川清掃も毎年行われているが、活動するボランティアも高齢化が進み、実行しにくくなっている。この状況をどう考えているか。

屋代川をはじめとする町民参加の河川清掃は、年3回実施している。集落からは、高齢化により今までどおりの作業は難しいとの声もいただいている。

町としては、ボランティア精神を築くことが重要であり、作業については、無理せずに行える範囲での活動をお願いしたい。



動画配信はこちらから

町長が考える小学校像は

町長 魅力ある「高畠人」を育てるところ

問 設置者である町長が考える小学校像は。

答 児童の良好な学習環境の確保を第一義として考えている。ま

た、「地域とともにある学校づくり」の視点から、地域と学校の関わりを大切にしたいと思う。子どもたちに、より



▲効率的なスクールバス運行を

良い教育環境を確保し、魅力ある「高畠人」を育てるところでありたい。

スクールバスの運行見直しを

問 不審者や獣の出没、酷暑日の増加などから、スクールバス利用者の見直し、拡大を図ってはどうか。

答 遠距離通学対策の数値的基準を基本としながらも、路程上遠距離対象となる家庭を含め、様々な通学事情を勘案し、通学困難な状況を解決できるよう検討していく。

部活動の地域移行について

問 地域スポーツクラブへの移行時は、保護



▲活動しやすい地域移行へ

者負担が発生しないようにできないか。

答 国からの通知等に注視し、自己財源の確保や受益者負担軽減に向け、情報収集に努める。

問 運営にあたっては、二市二町で広域連

答 地域展開の初年度であり、実施することで様々な課題等も出てくるのが予想される。市町村間で相互に情報を交換し、広域的連携の必要性について議論したい。



動画配信はこちらから

5歳児健診の導入を

町長 早期導入に向けて検討を進める

問 5歳児健診の実施は、発達障害などの早期発見につながるだけでなく、就学前の生活習慣に関する指導や相談を受けられるメリットがある。全国的な推奨の方向性を受けて、早急に取り入れるべきと思うが町の考えは。

答 5歳児健診は、発達に関する問題を保護者が気づきやすくし、就学に向けて支援につながることで、子どもが学校生活への適応を助けることが期待されている。町としても早期導入に向けて検討を進めていく。

聴覚障がい対策は

問 手話言語条例制定後、手話の普及状況は。

答 講演会等で、手話通訳の配置やボランティアスクールで手話講座を実施。今後、学校での手話教室を計画していく。

問 「骨伝導イヤホン」の導入と窓口への設置の考えは。

答 耳が聞こえづらい高齢者等へのコミュニケーションシオン手段として、骨伝導イヤホンを年度内に導入する。窓

防犯対策への考えは

口に案内表示等を行い、どなたでも気軽に利用いただけるよう環境整備を図っていく。

問 最近の事件、事故を受けて防犯への意識が高まっている。防犯カメラの増設やドライブレコーダーなどの普及を進めるべきと思うが、現状は。

答 高畠町防犯カメラ

の設置及び運用に関する規程により、役場新庁舎をはじめ、太陽館等町内7施設に計66台の防犯カメラを設置し、犯罪抑止に効果を発揮している。防犯カメラの設置は、必要最小限度の範囲となるよう努めるものとし

森林整備と河川整備の進め方は

問 森林整備の優先順位を定めながら、町民が行う森林整備や河川整備について、情報を共有し、進めてほしいと思うが、町の考えは。

答 森林整備の優先順位を定めながら、町民が行う森林整備や河川整備について、情報を共有し、進めてほしいと思うが、町の考えは。町民が行う河川整備については、町民の皆さまの協力をいただき、年1〜2回実施している。無理せずできる範囲での整備をお願いしたい。



▲集落だけでは進まない河川整備(屋代川)

あお やぎ たかし
青柳 貴 議員

財政の今後の運営方針は

町長 歳入に見合った歳出を堅持する

問 令和7年度当初予算は131億5千万円で、予算編成時に、当初の要求ベースより約11億5千万円削減せざるを得ない状況にある。このような厳しい財政状況では、町民生活に密接に関わる案件が



▲町民との距離感を縮めたいまちづくり懇談会

後回しにされている可能性はある。今後の財政運営の方針は。
答 今後の財政運営にあたっては、自主財源が乏しい財政基盤の中、歳入に見合った歳出規模を堅持する。



動画配信はこちらから

問 町では地区ごとに行っている「まちづくり懇談会」を中心に、対話の機会を設けている。
答 町の状況を理解していただく機会や手段は様々あり、町民と接する様々な機会を捉え、

問 町の税収を増やす一つの手段として、飲食、食料品、生活用品などをできるだけ町内商店、企業で消費してもらいたい。
答 町の財政状況を説明し、それを理解、協力していただくための対話の機会を増やしてはどうか。

町民との対話機会を増やしてほしいか

歳出では、事務事業の内容を継続的に検証し、補助事業の見直しなどに取り組む。
歳入では、ふるさと納税を含めて可能な限り財源を確保していく。

「広報たかはた」表紙にイベント情報を

より一層、行政と町民の相互理解を深めていきたいと考えている。

問 町には魅力的なイベントが多数あるが、残念ながらその日程を知らない町民が多いのではないかと。経済効果を高めるためにも来客数を増やしたい。
答 「広報たかはた」の表紙に、イベント情報を毎月掲載することは、各月でイベント数も変わることから、表紙の統一性を損なうため、難しいと考えている。今後、A3サイズで4月から翌年3月までの町内イベント情報

問 「広報たかはた」の表紙に、イベント情報を毎月掲載することは、各月でイベント数も変わるから、表紙の統一性を損なうため、難しいと考えている。今後、A3サイズで4月から翌年3月までの町内イベント情報

問 7年度税制改正において、企業版ふるさと納税制度が9年度まで延長されたことを踏まえ、企業とマッチングを行う事業者と提携し、取り組みの強化を図るなど、あらゆる機会を捉えて、企業版ふるさと納税を多くの企業に頂けるよう、町の事業を積極的に周知していく。

問 当町の企業版ふるさと納税の実績は、4年度が70万円(2社)、5年度が370万円(3社)、6年度は260万円(5社)と成長が鈍化している。
町長自ら、トップセールスを行い、企業に働きかける考えはあるのか。また、今後の計画は。

きく ち ひで お
菊地 英雄 議員

どう期待できる 企業誘致のアドバイス

町長 最適な誘致手法など助言をいただく

問 当町では、産業振興策の目標に企業誘致の課題があり、今年度は産業立地センターによる支援を受けて用地整備や企業誘致を進める計画がある。
その伴走型支援の手法から、こういった成果が期待できるのか。
答 令和7年度、日本立地センターの支援を受け、最適な整備手法や整備スケジュールの策定、企業誘致の手法の助言等をいただき、産業用地の整備に向けて前進させていきたい。



動画配信はこちらから

問 57年ぶりの新庁舎だが、北側などから見ても病院やげんき館、図書館などの公共エリアの中核となる庁舎として、もう少し明るく温かみのある色調で、統一感があってもいいのではと感じた。
答 周囲に圧迫感を与えないよう南側正面から北西側に向かって段々となるセットバックした形状とした。外壁面や柱には浮造りし

問 57年ぶりの新庁舎だが、北側などから見ても病院やげんき館、図書館などの公共エリアの中核となる庁舎として、もう少し明るく温かみのある色調で、統一感があってもいいのではと感じた。
答 周囲に圧迫感を与えないよう南側正面から北西側に向かって段々となるセットバックした形状とした。外壁面や柱には浮造りし

発生した「不適切業務など」要因の検証は

問 町職員の入札不正や不適切事務処理等が連続し、町民の信頼低下やまちづくりへの影響も心配される。
発生した要因等をどう検証してきたのか。
答 入札不正の件は長期にわたる同じ職場への配置、不適切な事務処理の件は経験の浅い職員が多く配置されたことで業務課題を共有できなかったことが一因だったと考えている。

職員成長の組織づくりとは

問 業務量に人員が見合っていないか、精神不調や中途退職者が増加している実態の中で、職員負担や疲労感拡大などの現状認識は。
答 その上で、職員の成長が実感できる職場、組織づくりをどう進めていくのか。

問 業務量に人員が見合っていないか、精神不調や中途退職者が増加している実態の中で、職員負担や疲労感拡大などの現状認識は。
答 その上で、職員の成長が実感できる職場、組織づくりをどう進めていくのか。



▲町民の暮らしを支える職員体制も重要(新庁舎)

問 経験したことのない人口減少、少子高齢社会を迎え、自治体職員はより複雑、多様化する行政課題解決への対応が求められる。
一方、人員体制は限られており、職員の負担感が増加傾向にあると感じている。
管理職のマネジメント能力強化、事務事業の見直しやデジタル化による業務の効率化を進めたい。

新庁舎議場こけら落としイベントを開催



6月定例会開会前に、新庁舎議場での初議会を記念し、こけら落としイベントを行いました。

第1部は「議場コンサート」と題し、ヴォーカル・長谷川直美さん、ヴァイオリン・阿部正孝さん、ピアノ・花輪美智子さんによる演奏を披露していただきました。第2部は、亀岡小学校3年生7人が、高島町町民憲章を前文から暗唱で元気よく発表してくれました。

イベントにご協力いただいた皆さん、大変ありがとうございました。



発表してくれた児童たちの感想

- 緊張したけど、大きな声で発表できてよかった。
- 発表を聞いて(見て)くれてありがとうございました。
- 発表の後に、「上手だね」って言われて嬉しかった。

委員長
副委員長
委員

編集委員

西金青武秋佐平
方子柳田葉藤
茂陸 正晶純
太夫貴隆子子誠

新庁舎での9月定例会を傍聴しませんか 9月4日(木)～22日(月)

本会議の傍聴は自由です。
詳しい日程は9/1以降町ホームページでご確認ください。
問い合わせ先 議会事務局 ☎52-4485